

# 第43期定時株主総会 参考資料

1. 経営指標等の推移	P 2
2. 業績等の推移	P 3
3. セグメント別売上高の状況	P 5
4. 財務諸表	P 6
5. 第44期の見通し	P 9
6. 事業紹介	P 10
7. 事業拠点	P 12



2014年6月21日  
エヌアイシ・オートテック株式会社

証券コード:5742

# 1. 経営指標等の推移

回 次			第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決 算 年 月			2010年3月	2011年3月	2012年3月	2013年3月	2014年3月
売 上 高	(千円)		2,556,589	4,992,882	5,968,462	5,363,510	5,456,494
経 常 利 益	(千円)		△150,895	94,065	274,775	200,352	344,766
当 期 純 利 益	(千円)		△74,007	46,958	152,861	120,566	205,628
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)		—	—	—	—	—
資 本 金	(千円)		156,100	156,100	156,100	156,100	156,100
発 行 済 株 式 総 数	(株)		55,000	55,000	55,000	55,000	5,500,000
純 資 産 額	(千円)		2,843,160	2,886,368	3,002,912	3,041,855	3,268,205
総 資 産 額	(千円)		3,535,054	5,495,341	4,976,456	5,242,130	5,271,187
1 株 当 た り 純 資 産 額	(円)		521.78	529.71	551.10	558.25	599.79
1株当たり配当額(内、1株当たり中間配当額)	(円)		700 (-)	800 (-)	1,200 (-)	900 (-)	14 (-)
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	(円)		△13.58	8.61	28.05	22.12	37.73
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)		—	—	—	—	—
自 己 資 本 比 率	(%)		80.4	52.5	60.3	58.0	62.0
自 己 資 本 利 益 率	(%)		△2.6	1.6	5.2	4.0	6.5
株 価 収 益 率	(%)		—	21.8	12.0	12.5	8.3
配 当 性 向	(%)		—	92.8	42.8	40.7	37.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		234,777	△190,088	875,657	△253,458	27,574
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		△39,679	△60,679	△57,805	△67,867	△223,565
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)		△54,241	△37,933	△43,419	△65,078	△48,669
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)		573,586	284,885	1,059,305	672,900	428,239
従業員数(外、平均臨時雇用者数)	(名)		137 (8)	140 (15)	141 (17)	151 (14)	158 (21)

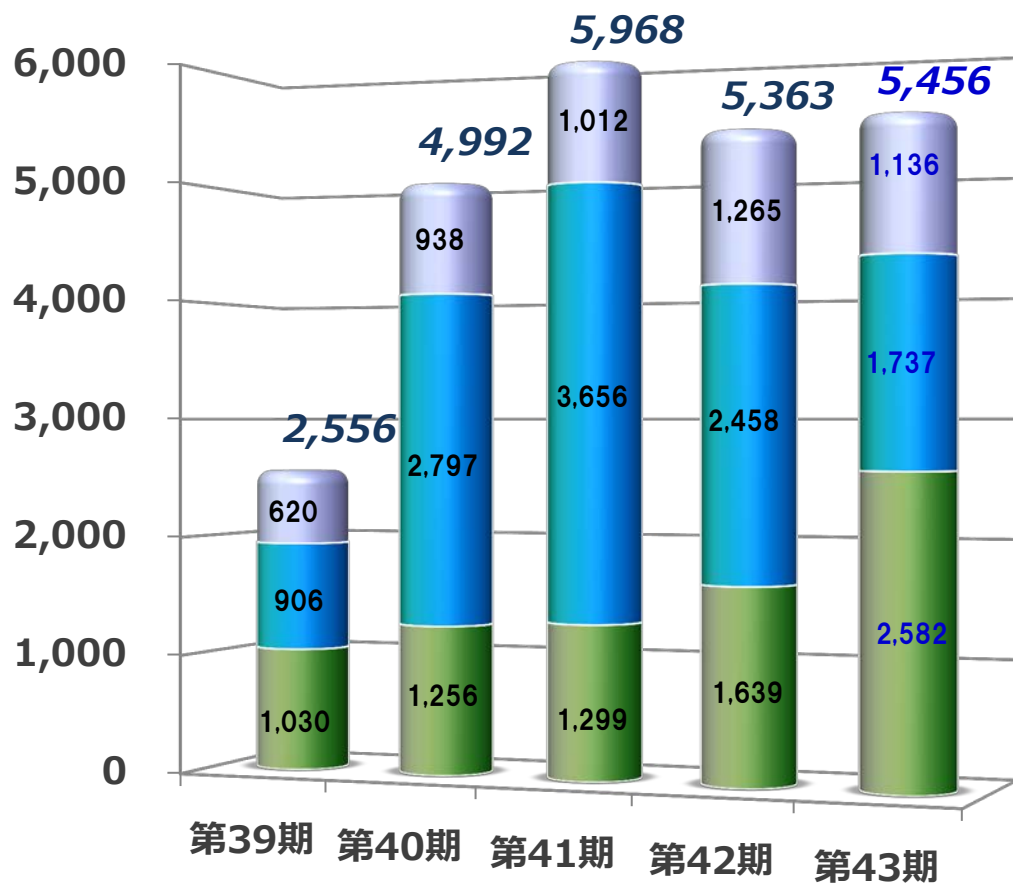
- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載していません。  
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 3. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社がないため記載を省略しております。  
 4. 2013年4月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。第39期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。  
 5. 第41期の1株当たり配当額1,200円には、創業85周年記念配当300円を含んでおります。  
 6. 第40期から第43期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載していません。  
 7. 第39期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。  
 8. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

## 2. 業績等の推移 ①

### 売上高

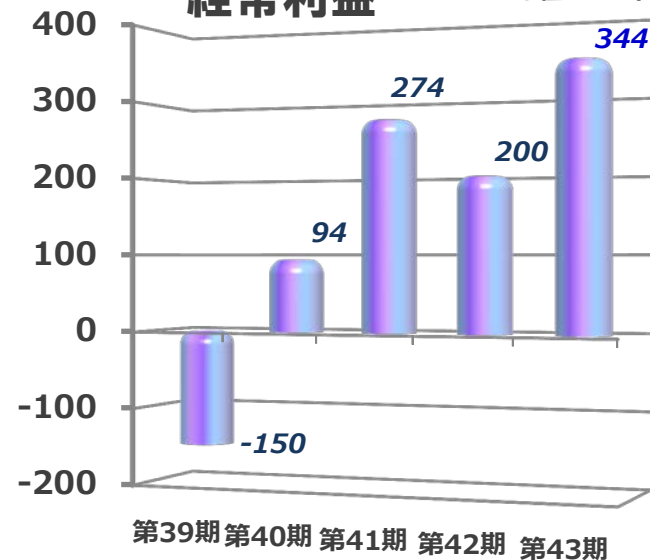
■ 商事部門
 ■ 装置部門
 ■ アルファフレーム部門

単位：百万円



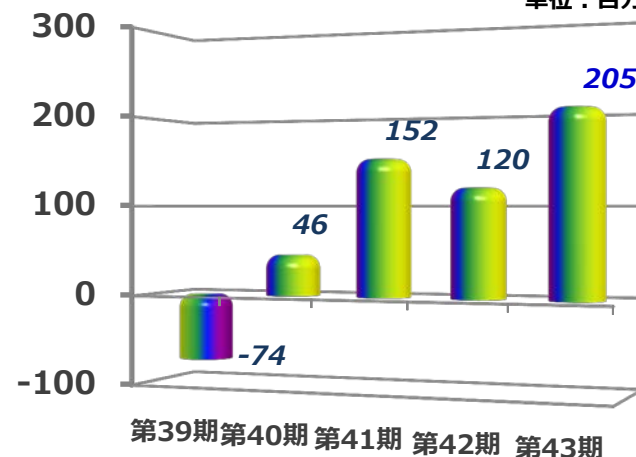
### 経常利益

単位：百万円



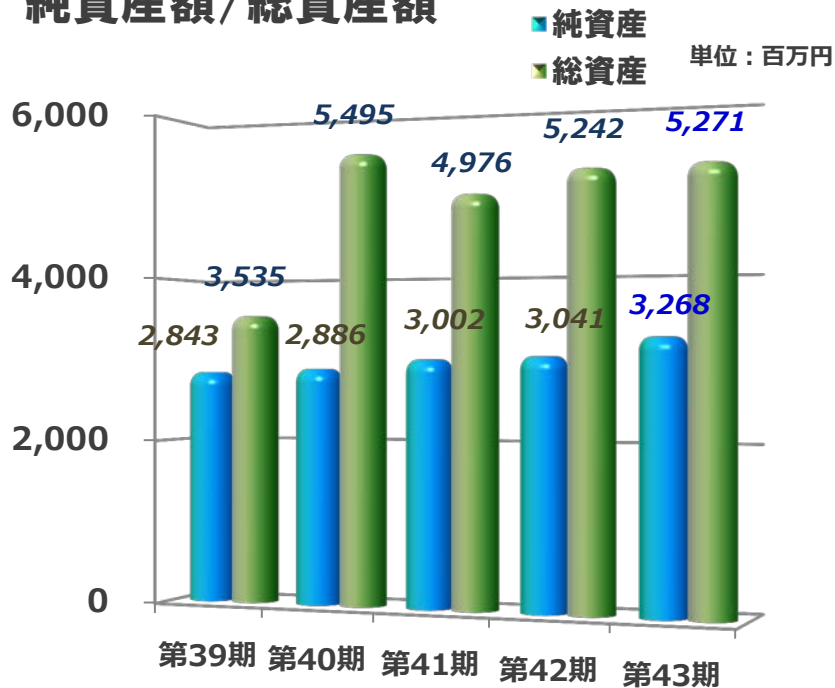
### 当期純利益

単位：百万円

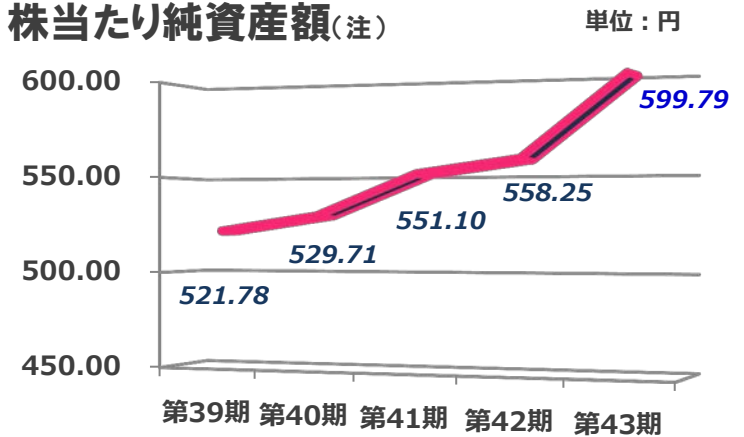


# 業績等の推移 ②

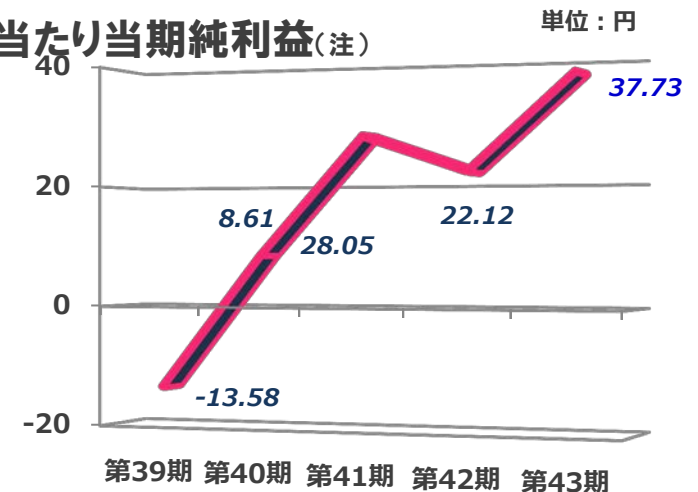
## 純資産額/総資産額



## 1株当たり純資産額(注)



## 1株当たり当期純利益(注)



### 財政状態の分析

当事業年度末の総資産は、前事業年度末と比べ29百万円増加し、5,271百万円となり、負債合計は、前事業年度末と比べ197百万円減少し、2,002百万円となりました。正味運転資本（流動資産から流動負債を控除した金額）は1,375百万円であり、流動比率は176.3%であります。

なお、当事業年度末の純資産合計は、前事業年度末と比べ226百万円増加し、3,268百万円となりました。自己資本比率は62.0%となっております。

(注) 平成25年4月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。  
第39期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

### 3. セグメント別売上高の状況

<p><b>アルファ フレーム部門</b></p>	<p>アルファフレーム部門におきましては、「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用し、アルミニウム合金製構造材の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案営業を継続的に展開いたしました。一般の材料・部品としての売上高は、当事業年度の前半において順調に推移したことによって、前事業年度より増加となりました。</p> <p>また、上記の各拡販ツールを活用したF A装置等の筐体に使用される大口案件も 前事業年度の後半から順調に増加し、売上高は大幅に伸長いたしました。</p> <p>この結果、当部門の売上高は2,582百万円（前期比57.5%増）となりました。</p>
<p><b>装置部門</b></p>	<p>装置部門におきましては、当社の技術力を活かした質の高いF A装置の提案活動を推進いたしました。前事業年度では自動車部品製造企業からの機械設備投資において集中的な案件がありましたが、当事業年度では投資意欲に一服感が見受けられ、減少となりました。</p> <p>なお、前事業年度低迷しておりましたF P D業界向けクリーンブースに関しましては復調傾向にあり、前事業年度より大幅な増加となりました。</p> <p>この結果、当部門の売上高は1,737百万円（前期比29.3%減）となりました。</p>
<p><b>商事部門</b></p>	<p>商事部門におきましては、工業用砥石、油脂類等の消耗品が、ほぼ前事業年度並みで推移いたしました。なお、機械設備関係は前事業年度が好調であったことの反動もあり、当事業年度の前半は低調に推移いたしましたが、後半からは前事業年度並みに復調いたしました。しかしながら、前半の低調を取り戻すまでには至らず、通期では減少となりました。</p> <p>この結果、当部門の売上高は1,136百万円（前期比10.2%減）となりました。</p>

# 4. 財務諸表

## 貸借対照表 (2014年3月31日現在) (単位：千円)

科 目	金 額
<b>資 産 の 部</b>	
流動資産	3,176,803
固定資産	2,094,384
有形固定資産	1,452,128
無形固定資産	16,039
投資その他の資産	626,216
資産合計	5,271,187
<b>負 債 の 部</b>	
流動負債	1,801,716
固定負債	201,266
負債合計	2,002,982
<b>純 資 産 の 部</b>	
株主資本	3,149,774
資本金	156,100
資本剰余金	146,100
利益剰余金	2,881,998
自己株式	△34,423
評価・換算差額等	118,430
その他有価証券評価差額金	118,430
純資産合計	3,268,205
負債及び純資産合計	5,271,187

## 損益計算書 (自 2013年4月 1日 至 2014年3月31日) (単位：千円)

科 目	金 額
売上高	5,456,494
売上原価	4,242,058
売上総利益	1,214,435
販売費及び一般管理費	878,963
営業利益	335,472
営業外収益	9,300
営業外費用	6
経常利益	344,766
税引前当期純利益	344,766
法人税等	139,137
当期純利益	205,628



## 1) 貸借対照表 (2014年3月31日現在)

<b>流 動 資 産</b>	<p>当事業年度末における流動資産の残高は、前事業年度末と比べ384百万円減少し、3,176百万円となりました。これは主に、装置案件の仕掛増により、仕掛品が124百万円増加した一方で、仕入債務の支払い増加や新工場建設に係る支払いにより現金及び預金が244百万円減少したことや、前事業年度に集中した機械設備案件の債権回収により、売掛金が271百万円減少したことなどによります。</p>
<b>固 定 資 産</b>	<p>当事業年度末における固定資産の残高は、前事業年度末と比べ413百万円増加し、2,094百万円となりました。これは主に、新工場の取得等により有形固定資産が294百万円増加したことや、保有株式の時価上昇等により投資有価証券が114百万円増加したことなどによります。</p>
<b>流 動 負 債</b>	<p>当事業年度末における流動負債の残高は、前事業年度末と比べ213百万円減少し、1,801百万円となりました。これは主に、電子記録債務が297百万円、未払法人税等が100百万円、設備関係支払手形が195百万円、それぞれ増加した一方で、支払手形が468百万円、買掛金が350百万円、それぞれ減少したことなどによります。</p>
<b>固 定 負 債</b>	<p>当事業年度末における固定負債の残高は、前事業年度末と比べ16百万円増加し、201百万円となりました。これは主に、繰延税金負債が9百万円、退職給付引当金が11百万円、それぞれ増加した一方で、リース債務が5百万円減少したことなどによります。</p>
<b>純 資 産</b>	<p>当事業年度末における純資産は、前事業年度末と比べ226百万円増加し、3,268百万円となりました。これは主に、当期純利益の計上等により利益剰余金が156百万円増加したことと、保有株式の時価上昇に伴い、その他有価証券評価差額金が69百万円増加したことなどによります。</p>

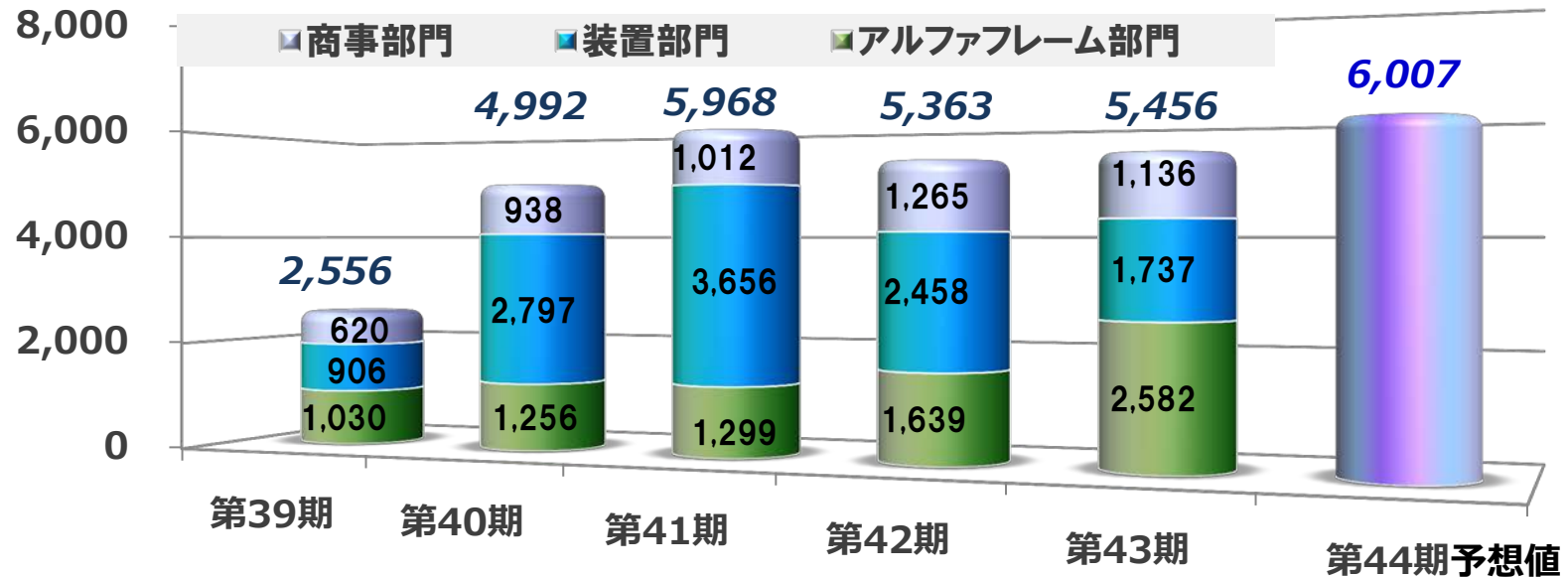
## 2) 損益計算書 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)

<b>売上高</b>	<p>当事業年度は、アルファフレーム部門において、「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用し、アルミニウム合金製構造材の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案営業を継続的に展開いたしました。一般の材料・部品としての売上高は、当事業年度の前半において順調に推移したことによって、前事業年度より増加となりました。また、上記の各拡販ツールを活用したF A装置等の筐体を使用される大口案件も前事業年度の後半から順調に増加し、売上高は大幅に伸ばいたしました。</p> <p>装置部門においては、当社の技術力を活かした質の高いF A装置の提案活動を推進いたしました。前事業年度では自動車部品製造企業からの機械設備投資において集中的な案件がありましたが、当事業年度では投資意欲に一服感が見受けられ、減少となりました。</p> <p>なお、前事業年度低迷しておりましたF P D業界向けクリーンブースに関しましては復調傾向にあり、前事業年度より大幅な増加となりました。</p> <p>商事部門においては、工業用砥石、油脂類等の消耗品が、ほぼ前事業年度並みで推移いたしました。なお、機械設備関係は前事業年度が好調であったことの反動もあり、当事業年度の前半は低調に推移いたしましたが、後半からは前事業年度並みに復調いたしました。しかしながら、前半の低調を取り戻すまでには至らず、通期では減少となりました。</p> <p>これらの結果、売上高は5,456百万円（前期比1.7%増）となりました。</p>
<b>売上総利益</b>	<p>当事業年度は、売上高が微増であったものの、大口案件の継続受注に加え、当社主力製品「アルファフレームシステム」の拡販ツールである3次元自動設計システム「カクチャ™」及び組立省力化システム「マーキングシステム™」を活用した結果、設計及び組立効率の向上による利益率の改善等が図られたことに加え、外注先との連携による製造原価の低減活動等により、売上総利益は1,214百万円（前期比18.5%増）となりました。</p>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<p>販売費及び一般管理費につきましては、継続的かつ効果的な人的投資及び販促活動を推進した結果、878百万円（前期比5.7%増）となりました。</p>
<b>営業利益 経常利益 当期純利益</b>	<p>当事業年度は、売上高が微増であったものの、設計および組立効率の向上による利益率の改善と外注先との連携による製造原価の低減活動等により、営業利益が335百万円（前期比73.9%増）、経常利益が344百万円（前期比72.1%増）、当期純利益が205百万円（前期比70.6%増）となりました。</p>



## 5. 第44期の見通し

単位：百万円



わが国経済は、消費税率引き上げの影響が懸念されますが、経済政策の効果や企業業績の向上を受けて、回復基調が続くものと予測されます。

このような状況のなか、引き続き拡販ツールである「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用し、付加価値を高めた当社主力製品「アルファフレームシステム」及び次世代に適する各種FA装置の受注確保を図ってまいります。

特に鉄鋼やステンレス等で製作されていた大型構造物（FA装置等の筐体）において、アルミニウム合金製構造物への切り替え等の案件が増えつつあり、各拡販ツールを活用した対応に対して高い評価を受けております。自動車部品製造企業向けのFA装置においては、国内では生産革新ライン、国外では現地需要増に対応した生産ラインの計画も示されており、そのような設備投資計画に対応すべく提案営業を行ってまいります。

なお、設備・開発投資として、販売と製造に関する業務システムの更新を推進中であり、これにより、お客様への更なる迅速な対応や社内の業務効率の改善が図られ、安定した収益確保を可能とする体制が構築される見込です。

また、新製品の研究・開発はもとより、「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」の更なる進化を図るため、積極的な開発投資を計画しております。

# 6. 事業紹介

NIC Autotec, Inc.

<http://www.nic-inc.co.jp/>

## 数々の分野で部材単品から装置設計製作、ラインレイアウトまで 生産ラインのトータルコーディネーター

アルファフレーム・装置・商事の  
三部門が生む総合力



フレームを知り尽くした最適設計



1. 素材供給	2. 加工	3. 油回収	4. 搬送	5. 洗浄	6. 検査	7. 整列
<b>省力化</b>	<b>総合力</b>	<b>エコ</b>	<b>マテハン</b>	<b>洗浄で品質アップ</b>	<b>検査で不良流出STOP</b>	<b>打振なく箱詰め</b>
パーツフィーダーやロボット、コンベアを使用した供給装置	工作機種のレイアウトエンジニアリング 砥石、切削工具、油類等の測定	加工機のクーラントは次工程へ持ち出さない	各工程をつなぐ、コンベア、リフター、パッパ装置等	小型標準洗浄機 CSA-200		

1. 部品供給	2. 組立	3. 包装	4. 出荷
<b>自動供給</b>	<b>パレット搬送コンベア</b>	<b>製函、箱詰め自動化</b>	<b>アルミ簡易クレーン</b>
			アルコアラールシステムは株式会社 普通テクノの製品です

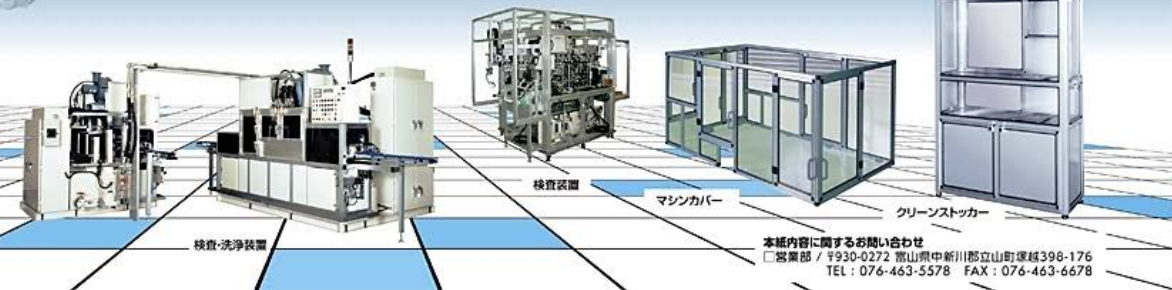
### ALFA FRAME SYSTEM

20年を超える実績  
日本でのアルミ構造材のバイオニア

アルファフレームの特長  
1. 簡単に設置・リサイクル性  
2. 設計・施工が容易  
3. 耐震・耐火・防音・防塵  
4. 高層ビル・工場・店舗  
5. 幅広い分野に対応

2200種類を超えるアルミフレーム製品

## 産業用アルミフレームで業界をリードする アルファフレームシステム





# アルファフレームシステムでトータルコストダウン

ALFA FRAME SYSTEM  
http://www.nic-inc.co.jp/

## 幅広い分野に適用する豊富な製品ラインナップ

### アルファフレーム



### プラケット



### アクセサリ



### マシンカバー



### 専用3D-CADによる設計サービス



### 安全柵AGシリーズ



### 標準コンベアシリーズ



### アルファコンベア



### ALFA CLEAN BOOTH

クリーンブース 品質向上は環境から



### アルミクリーンブース



### クーラント回収装置



## 自動設計CADサービス

当社独自の自動設計CADシステムにより、  
簡単な仕様をいただいでスピーディーに図面をご提供

### ●ご提供各種図面



### 世界初、取付位置を教えるマーキングシステム™で作業時間がぐんと短縮

有償オプション

- ① ナット(NSM-Q4-4)をラインに合わせて挿入
- ② プラケット(ABL-D-20-4)を軌跡線に合わせて取り
- ③ 部品番号(A)が一斉表示するフレームを設置
- ④ 指定方向(A&B)自動に合わせて取り

A, Bの色差を表示していますので、誤りも軽減しやすくなります。

● 部品番号 - 部品番号  
● アルファフレーム®型式 - 長さ

※マーキングシステム™をご指定されない場合は、通常の価格となります。

マーキングはアルコールで消去可能

### 自由に選べる購入方法

ご注文

お客様にて組立 (部材発送) / NICにて組立 (組立依頼)

部品 (マーキング有) + 組立依頼 (マーキング有) → A

部品 (マーキング有) + 組立依頼 (マーキング有) → B

組立完成品 (組立完成品発送 有償オプション) → C

現地届付 (当ヒスタッフが現地にて組立・届付 有償オプション) → D

※現地組立や現地での届付は有償です。別途お見積いたします。

## ご依頼から納入までのサービスの流れ



## コストカットイメージ

(例) 装置カバー製作の場合 (物件の特性により構成比率、削減率は異なります)



# 7. 事業拠点

富山本社  
〒930-0034  
富山県  
富山市清水元町7-8  
☎ 076-425-0738



立山工場 & 開発センター  
〒930-0272  
富山県  
中新川郡  
立山町塚越398-176  
☎ 076-463-5578



流杉工場  
〒939-8032  
富山県  
富山市流杉255  
☎ 076-422-2578



アルファfarm九州  
〒837-0907  
福岡県  
大牟田市四箇新町1-2  
☎ 0944-41-7707



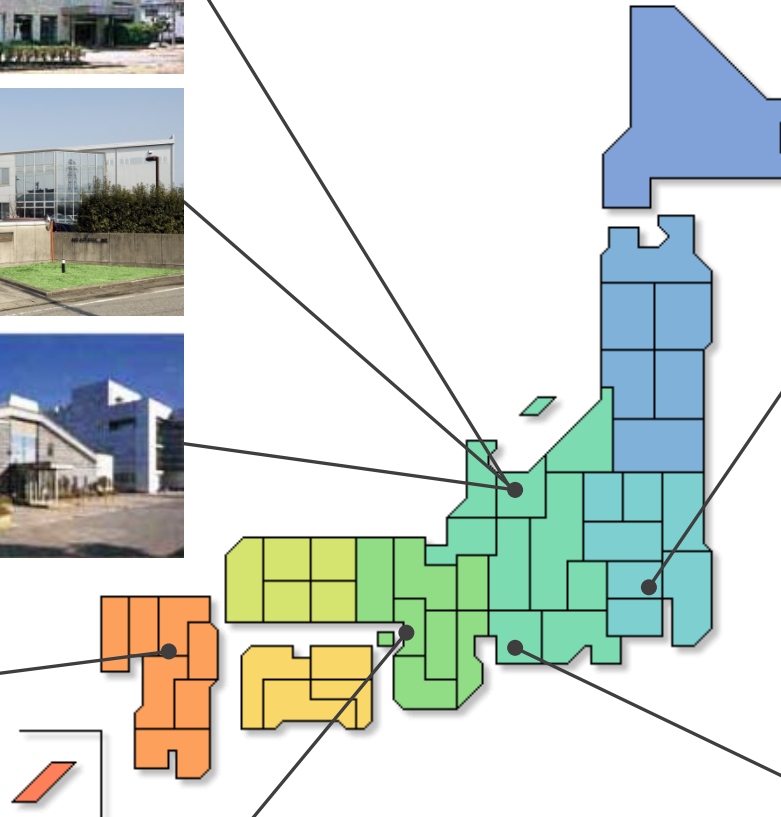
アルファfarm関西  
〒578-0965  
大阪府  
東大阪市本庄西2-4-29  
☎ 06-6747-2212



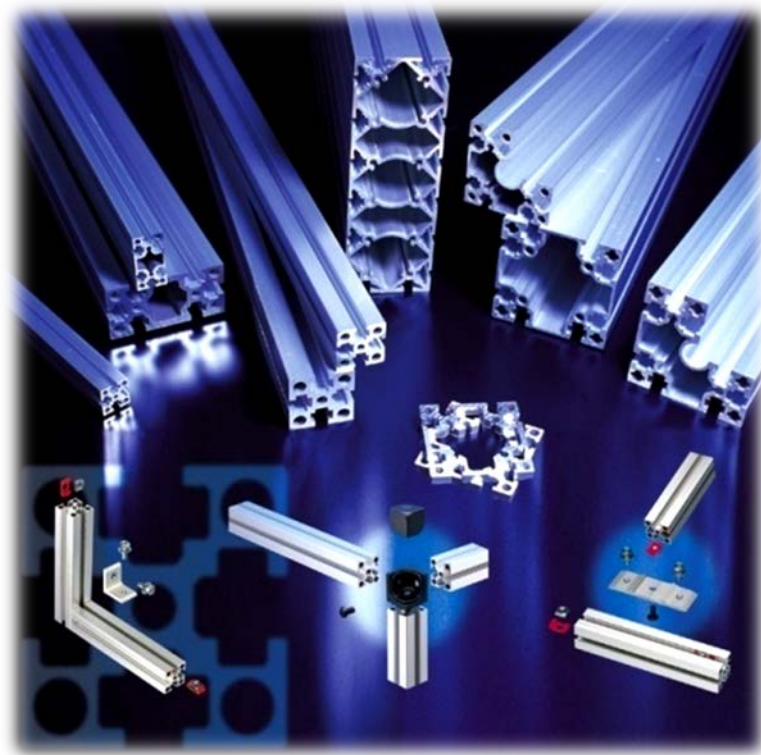
アルファfarm東海  
〒448-0801  
愛知県  
刈谷市板倉町1-6-6-102  
☎ 0566-45-6802



東京本社  
〒135-0063  
東京都  
江東区有明3-7-26  
有明フロンティアビルB棟11階  
☎ 03-5530-8060



- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料に対するお問合せは、以下の管理グループにてお願い申し上げます。  
 <エヌアイシ・オートテック株式会社 管理部管理グループ>  
 TEL : 076-425-0738                      FAX : 076-422-2712  
 Mail: [ir@nic-inc.co.jp](mailto:ir@nic-inc.co.jp)              URL : <http://www.nic-inc.co.jp/>



## エヌアイシ・オートテック株式会社

- 東京本社 / 〒135-0063 東京都江東区有明3-7-26有明フロンティアビルB棟
- 富山本社 / 〒930-0034 富山県富山市清水元町7-8
- 流杉工場 / 〒939-8032 富山県富山市流杉255
- 立山工場 / 〒930-0272 富山県中新川郡立山町塚越398-176
- アルファレーム東海 / 〒448-0801 愛知県刈谷市板倉町1-6-6-102
- アルファレーム関西 / 〒578-0965 大阪府東大阪市本庄西2-4-29
- アルファレーム九州 / 〒837-0907 福岡県大牟田市四箇新町1-2

- TEL : 03-5530-8060
- TEL : 076-425-0738
- TEL : 076-422-2578
- TEL : 076-463-5578
- TEL : 0566-45-6802
- TEL : 06-6747-2212
- TEL : 0944-41-7707

**★ご注意 著作権 © 2014 NIC AUTOTEC, INC.**

**WARNING :** All Rights Reserved . Unauthorized duplication is a violation of applicable laws.

本資料を権利者の許諾なく無断複製、改変、頒布、翻訳などに使用することは、著作権上、禁じられています。

**産業財産権 2014 NIC AUTOTEC, INC. ALFA CLEAN BOOTH & SYSTEM ,**

ALFA FRAME SYSTEMの主要な構成部品は特許、実用新案、意匠権など産業財産権により保護されております。